

看護学生の入学時・2年次の読書状況とその変化

—読書頻度と関心の高い本—

南雲美代子¹⁾ 大島弓子²⁾ 滝内隆子³⁾ 佐々木真紀子⁴⁾

The State and Change of Reading among the Student Nurses - How frequently they read? What books are interested in? -

Miyoko NAGUMO Takako TAKIUCHI Yumiko OSHIMA Makiko SASAKI

要旨：日本赤十字秋田短期大学の看護学科2期生における入学時と2年次の読書状況とその変化を明らかにする目的で質問紙による縦断的調査を実施した。調査内容は、読書の頻度、読書の種類、印象に残る本であり、78の有効回答を集計した結果、以下の結論が得られた。1) 読書の頻度は、入学時に比べ2年次では本を読まない傾向にあった。2) 読書の種類は、入学時・2年次ともに「小説」が最も多く、次いで「医療・看護・福祉」、「ノンフィクション」であり、上位5つの読書の種類・順位に変化はみられなかった。3) 印象に残った本の種類は、入学時・2年次ともに「小説」が最も多く、次いで「医療・看護・福祉」、「ノンフィクション」であった。4) 個人別の入学時と2年次の変化として、読書の頻度は、入学時より2年次で少なくなった学生が20名いた。また、読書の種類と印象に残った本は、入学時と2年次では記載内容が変化している学生が多かった。

キーワード：読書, 印象に残った本, 看護学生, 縦断調査

Summary : This study attempts to grasp the state and change of reading among the student nurse (the second entrees) of The Japan Red Cross Akita Junior College. Yearly Survey by questionnaireform was executed firstly when they entered, and secondly when they became sophomore. Questioned items are, fequency of reading, kinds(genres), and impressed books.

78 valid replies are analyzed and following conclusion was obtained;

- 1) As to the frequency, the student nurses become less reader as they moved up to sophomore.
- 2) As to genres, they favored "novel" each year, and "medicine/ nursing/welfare" followed. No change was observed among genres and the order of the best five choice.
- 3) As to the most impressed book, students chose "novel" each year, followed by "medicine/nursing/welfare" and "non-fiction".
- 4) As to the individual change, the frequency of reading dropped down when they became sophomore. Concerning to the kind and the choice of the most impressed book, many of sophomores showed certain change, comparing to the first year's answers.

Keywords : Reading, Impressed Book, Student Nurse, Yearly Survey

はじめに

読書は知識や教養を高めたり、人間性を豊かにするために効果があると思われる。特に、看護の対象である人間を理解していくためには、多様な

考え方や豊かな感性が必要であり、それらを育むために、読書は有効と思われる。そのため、看護学生の読書状況を把握しておくことは、教授活動上意義があると考え、我々は、日本赤十字秋田短

看護学科 1) 助手, 3) 4) 助教授, 2) 山梨県立看護大学看護学部教授
本研究の一部は、第25回日本看護研究学会学術集会において発表したものである。

期大学（以下本学という）の看護学科の学生に対し、入学時の読書状況を調査^{1) 2)}し、その結果を教材の選定や教育方法に活用してきた。また、この読書状況は、学習が進行するなどの学生自身の背景が変化することにより相違すると思われるため、その読書状況を把握することも教育には必要であると考えた。

読書状況をみた先行研究として、森³⁾の女子短期大学生を対象としたもの、安藤⁴⁾の看護学生を対象としたものがあった。しかし、個人の変化として縦断調査したものはみられなかった。そこで、今回は、2期生における入学時と2年次の読書状況を縦断的に調査を行うこととした。

なお、この研究は、入学時及び2年次に本学2期生を対象にして行った調査の一部である。

I. 研究目的

本学看護学科2期生の入学時と2年次の読書状況とその変化を明らかにする。

II. 研究方法

1. 調査対象：本学看護学科2期生で入学時・2年次ともに協力の得られた78名。
2. 調査期間：入学時 平成9年4月
2年次 平成10年4月
3. 調査方法

入学時・2年次ともに筆者らが作成した質問紙による集合調査で、被調査者には、調査の目的を説明し、了承を得たうえで記名式とした。

調査項目は、入学時・2年次ともに a.読書の頻度、b.読書の種類、c.印象に残った本であり、読書の頻度は多肢選択法、読書の種類と印象に残った本は自由記載法とした。

4. 集計・分析の方法

入学時・2年次ともに、以下の集計・分析方法で行った。

- 1) a.読書の頻度は、回答別に単純集計を行い、b.読書の種類、c.印象に残った本は、回答別に記載内容を1要素1内容に分類し、カテゴリー化した上で集計した。
- 2) 1)の集計結果を、入学時と2年次で比較分析し、読書の頻度は、差を明確にするために χ^2 検定を行った。
- 3) 個人別に入学時と2年次の読書状況を比較分析した。

なお、自由記載内容の分類およびカテゴリー

内容は、その分類の妥当性を高めるために研究者間で一定の期間をおいて3回分類し、検討した。

III. 結果

1. 読書の頻度

1) 入学時と2年次の読書の頻度

入学時と2年次の読書の頻度を示したものが図1である。入学時では「よく読む」が16名(20.5%)、「時々読む」が48名(61.5%)、「読まない」が14名(18.0%)であり、2年次では「よく読む」が12名(15.4%)、「時々読む」が43名(55.1%)、「読まない」が23名(29.5%)であった。これらの結果で、有意差はみられなかったが、入学時に比べて2年次では本を読まなくなっている傾向がみられた。

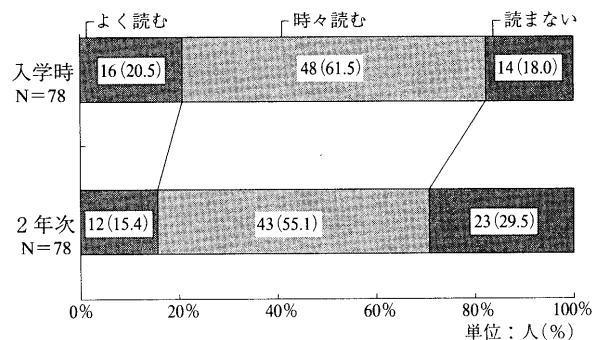


図1 読書の頻度

2) 個人別にみた入学時と2年次の

読書頻度の変化

個人別にみた入学時と2年次の読書の頻度の変化を示したものが表1である。入学時と2年次を比較すると【変化なし】は50名であり、【変化あり】は28名であった。具体的な変化をみてみると、【変化なし】では、入学時・2年次ともに「よく読む」8名、「時々読む」32名、「読まない」10名であった。【変化あり】の中で、[入学時より2年次の読書の頻度が高い]では、入学時「時々読む」・2年次「よく読む」が4名、入学時「読まない」・2年次「時々読む」4名の8名であった。[入学時より2年次の読書の頻度が低い]では、入学時「よく読む」・2年次「時々読む」7名、入学時「よく読む」・2年次「読まない」1名、入学時「時々読む」・2年次「読まない」12名の20名であった。

個人別にみた読書の頻度の変化においては、変化しなかった学生が多かった。しかし、変化した学生の中では、2年次になり読書の頻度が低くなった学生が多かった。

表1 個人別にみた入学時と2年次の読書の頻度の変化

変化の有無	具体的な変化	
変化なし 50名	入学時と2年次の頻度が同じ (入学時) (2年次)	50名
	よく読む → よく読む	8名
	時々読む → 時々読む	32名
	読まない → 読まない	10名
変化あり 28名	入学時より2年次が頻度が高い (入学時) (2年次)	8名
	時々読む → よく読む	4名
	読まない → 時々読む	4名
	入学時より2年次が頻度が低い (入学時) (2年次)	20名
	よく読む → 時々読む	7名
	よく読む → 読まない	1名
時々読む → 読まない	12名	

N=78名

2. 読書の種類

1) 入学時の読書の種類

入学時の読書の種類に記載のあった63名の記載件数91件を分類したものが表2である。『小説』が38件(41.7%)と最も多く、次いで『医療・看護・福祉』16件(17.6%)、『ノンフィクション』7件(7.7%)であった。

表2 入学時の読書の種類

種類	記載件数(%)
1.小説	38(41.7)
2.医療・看護・福祉	16(17.6)
3.ノンフィクション	7(7.7)
4.エッセイ	4(4.4)
4.詩集	4(4.4)
6.いろいろな本	3(3.3)
7.ジャンルは問わない	3(3.3)
8.話題になっている本	2(2.2)
9.その他	14(15.4)

N=91(単位:件 複数回答)

表3 2年次の読書の種類

種類	記載件数(%)
1.小説	42(46.1)
2.医療・看護・福祉	12(13.2)
3.ノンフィクション	8(8.8)
3.エッセイ	8(8.8)
4.詩集	6(6.6)
6.マンガ	4(4.4)
7.心理の本	2(2.2)
8.その他	9(9.9)

N=91(単位:件 複数回答)

2) 2年次の読書の種類

2年次の読書の種類に記載のあった55名の記載件数91件を分類したものが表3である。『小説』が42件(46.1%)と最も多く、次いで『医療・看護・福祉』12件(13.2%)、『ノンフィクション』『エッセイ』が各8件(8.8%)であった。

3) 入学時と2年次の読書の種類の

記載者数・記載件数・種類の比較

読書の種類の記載者数、記載件数は、入学時が63名91件、2年次が55名91件であり、記載者数は入学時に比べ2年次では少なくなったが、記載件数は同じであった。

入学時の読書の種類(表2)と2年次の読書の種類(表3)を比較すると、入学時・2年次ともに『小説』が最も多く、次いで『医療・看護・福祉』、『ノンフィクション』であり、上位5つの読書の種類・順位は同様であり、読書の種類に変化は見られなかった。

4) 個人別にみた入学時と2年次の

読書の種類の変化

個人別にみた入学時と2年次の読書の種類の記載内容の変化を示したものが表4である。入学時と2年次を比較すると【変化あり】は53名であり、【変化なし】は25名であった。具体的な記載内容の変化をみると、【変化あり】では、[入学時と2年次が異なる記載内容]35名、[入学時記載なし2年次記載あり]5名、[入学時記載あり2年次記載なし]13名であった。【変化なし】では、[入学時と2年次が同じ記載内容]15名、[入学時記載なし2年次記載なし]10名であった。

表4 個人別にみた入学時と2年次の読書の種類の変化

変化の有無	具体的な記載内容の変化
変化あり 53名	入学時と2年次が異なる記載内容 (入学時) (2年次) 35名 小説 → 小説・エッセイ 医療看護福祉・推理小説 → 推理小説 ジャンルは問わない → 医療系 など
	入学時記載なし2年次記載あり (入学時) (2年次) 5名 なし → 小説・詩集・ミステリー なし → 闘病記 など
	入学時記載あり2年次記載なし (入学時) (2年次) 13名 小説 → なし 看護婦の体験記 → なし など
変化なし 25名	入学時と2年次が同じ記載内容 (入学時) (2年次) 15名 小説・エッセイ → 小説・エッセイ 小説 → 小説 など
	入学時記載なし2年次記載なし 10名

N=78名

3. 印象に残った本

1) 入学時の印象に残った本

入学時の印象に残った本に記載のあった64名の記載件数72件を本の種類別に分類したものが表5である。『小説』が26件(36.1%)と最も多く、次いで、『医療・看護・福祉』25件(34.7%)、『ノンフィクション』10件(13.9%)であった。具体的な本の題名をみみると〈病院で死ぬということ〉が5件と最も多く、次いで〈脳内革命〉〈氷点〉が各3件であった。

表5 入学時の印象に残った本

本の種類(%)	本の題名			
1.小説 26(36.1)	氷点	3 飛ぶ男	1	
	人間失格	2 モモ	1	
	こころ	2 ゲド戦記	1	
	塩狩峠(三浦綾子)	2 はてしない物語	1	
	いまを生きる	1 橋のない川	1	
	アン・オブ・グリーンゲールズ	1 砂の女	1	
	アルジャーノンに花束を	1 きよらの香(宮尾登美子)	1	
	友情	1 キッチン(吉本バナナ)	1	
	ア・ルース・ボーイ	1 大地	1	
	パラサイト・イブ	1 黒猫館	1	
	変身	1		
	2.医療・看護・福祉 25(34.7)	病院で死ぬということ	5 こちら救急センター	1
		脳内革命	3 産女の夏	1
		もっと生きたい	2 ナイチンゲールの本	1
続・病院で死ぬということ		1 涙のアンパンマンマーチ	1	
小児病棟		1 顔つぶれても輝いて	1	
医療の倫理		1 愛深き淵より	1	
龍平の存在		1 生きてこそ(ワット隆子)	1	
家で看取ることと看取られること		1 天使のたまごーマンガ	1	
3.ノンフィクション 10(13.9)	私を抱いてそしてキスして	2 ヘレン・ケラー	1	
	アンネの日記	1 シーラという子	1	
4.エッセイ2(2.8)	生きるヒント	2		
	智恵子抄	1 金子みすず全集	1	
6.その他3(4.2)	ふたりー自伝	2		
	いいことから始めようーマンガ	1		
7.題名だけでは分類できなかった本 4(5.5)	いのち生まれ生き老いて	1 つばさを返して	1	
	出会い	1 生きるということ	1	

N=72 (単位:件 複数回答)

2) 2年次の印象に残った本

2年次の印象に残った本に記載のあった59名の記載件数65件を本の種類別に分類したものが表6である。『小説』が26件(40.0%)と最も多く、次いで、『医療・看護・福祉』15件(23.1%)、『ノンフィクション』7件(10.8%)であった。具体的な本の題名をみみると〈ふたり〉が5件と最も多く、次いで〈病院で死ぬということ〉3件であった。

表6 2年次の印象に残った本

本の種類(%)	本の題名			
1.小説 26(40.0)	いまを生きる	2 ゲームの達人	1	
	アルジャーノンに花束を	2 ねじまき島のクロニクル	1	
	塩狩峠	2 ノルウェイの森	1	
	リング	2 大地の子	1	
	橋のない川	1 アン・オブ・グリーンゲールズ	1	
	桜の木の下(太宰治)	1 キッチン(吉本バナナ)	1	
	人間失格	1 マディソン郡の橋	1	
	恍惚の人	1 午前0時の忘れ物	1	
	氷点	1 高校教師放課後日記	1	
	あすなろ物語	1 魍魎の匣	1	
	母なる風と父なる時代	1 棟居刑事の殺人人脈	1	
	(辻仁成)	(森村誠一)		
	2.医療・看護・福祉 15(23.1)	病院で死ぬということ	3 さらば悲しき性	1
		キラリ看護	1 ではまた明日	1
眠れぬ夜の夢		1 いのちの輝き	1	
家で看取ることと看取られること		1 患者から看護婦への31通の手紙	1	
ママまた僕を生んでね		1 天使のたまごーマンガ	1	
飛鳥へ、そしてまだ見ぬわが子へ		1 どんぐりの家ーマンガ	1	
題名忘れたが闘病生活の記録		1		
3.ノンフィクション 7(10.8)		アンネの日記	2 私を抱いてそしてキスして	1
	シーラという子	1 ギルバート・グレイブ	1	
	ジェニーのなかの400人	1 20歳の原点	1	
4.エッセイ3(4.6)	生きるヒント	1 人間だもの(相田みつを)	1	
	イギリスはおいしいー料理	1		
4.その他8(12.3)	ふたりー自伝	5		
	太っ腹とつくる本ー人生訓	1		
	人生を変えるものーキリスト教	1		
	ソフィーの世界ー哲学	1		
7.題名だけでは分類できなかった本 6(9.2)	出会い	1 時の輝き	1	
	出会いが楽しくなる100の法則	1 春の野原満天の星の下	1	
	名前をわすれたが河野博臣先生の	1		
	たくさんありすぎて1つはあげられません	1		

N=65 (単位:件 複数回答)

3) 入学時と2年次の印象に残った本の

記載者数・記載件数・種類の比較

印象に残った本の記載者数、記載件数は、入学時が64名72件、2年次が59名65件であり、記載者数、記載件数ともに入学時より2年次になり少なくなった。

入学時の印象に残った本(表5)と2年次の印象に残った本(表6)の種類を比較すると、入学時・2年次ともに『小説』が最も多く、次いで、『医療・看護・福祉』、『ノンフィクション』であり、上位4つの種類・順位は同様であった。しかし、第2位の『医療・看護・福祉』は、入学時が25件(34.7%)であったが、2年次では15件(23.1%)と10件(11.6%)も減少した。

4) 個人別にみた入学時と2年次の

印象に残った本の変化

個人別にみた入学時と2年次の印象に残った本の記載内容の変化を示したものが表7である。入学時と2年次で記載内容に【変化あり】が59名、【変化なし】が19名であった。

次に、具体的な記載内容の変化をみてみると【変化あり】では、[入学時と2年次が異なる記載内容]が35名、[入学時記載なし2年次記載あり]が9名、[入学時記載あり2年次記載なし]が15名であった。【変化なし】では、[入学時と2年次が同じ記載内容]が15名、[入学時記載なし2年次記載なし]が4名であった。

さらに、具体的な本の題名をしてみると、【変化あり】の[入学時と2年次が異なる記載内容]の中には少数だが、〈いまを生きる〉〈眠れぬ夜の夢〉など授業で紹介した本や教材の一部として取り上げた本があった。また、【変化なし】の[入学時と2年次が同じ記載内容]の中に〈人間失格〉〈氷点〉などがあった。

IV. 考察

1. 読書の頻度について

入学時の読書の頻度の「よく読む」と「時々読む」をあわせると82%であり、2年次の「よく読む」と「時々読む」をあわせると70.5%であった。これらは、異なる調査方法で行われているため明確な比較はできないが、毎日新聞社の読書世論調査⁵⁾の10代後半の書籍を読む割合が50%であったことからみると、本学の学生は読書の頻度が高いと思われる。しかし、2年次の読書の頻度が、全体では

表7 個人別にみた入学時と2年次の印象に残った本の変化

変化の有無	具体的な記載内容の変化
変化あり 59名	入学時と2年次が異なる記載内容 35名 (入学時) (2年次) 病院で死ぬということ、変身etc. → ふたり 旅立とう今 etc. → いまを生きる 愛深き淵より → 眠れぬ夜の夢 etc.
	入学時記載なし2年次記載あり 9名 (入学時) (2年次) なし → ママまた僕を生んでね なし → 人間だもの etc.
	入学時記載あり2年次記載なし 15名 (入学時) (2年次) 病院で死ぬということ → なし 龍平の存在 → なし 私を抱いてそしてキスして → なし
変化なし 19名	入学時と2年次が同じ記載内容 15名 (入学時) (2年次) 病院で死ぬということetc. → 病院で死ぬということ 人間失格 → 人間失格 氷点 → 氷点 etc.
	入学時記載なし2年次記載なし 4名

N = 78名

入学時より低下している。また、個人別にみた読書の頻度でも、入学時より2年次になり低くなった学生が20名であった。このように2年次になり読書の頻度が低くなったことは、本が写真やイラストの多い雑誌などとは異なり、活字を通し自分の頭の中で想像しながら読みすすめるものであり、ある程度の時間が必要であると思われる。安藤⁶⁾の本を読まない学生の読みたくないと思われる理由の第2位に「忙しくて読む暇がない」があがっていること、金内⁷⁾の女子短期大学生の生活行動調査でアルバイトや予習・復習などに費やす時間が多いことなどから考えると、本学の学生も入学時と比べて2年次になり、アルバイトや予習・復習などに時間がとられるようになり、本を読むための時間的余裕がなくなってきたことが影響し、本を読まない傾向になったと考えられる。

看護の対象を理解していくためには、多様な考え方や豊かな感性を育むために読書が必要である。そのためには、短時間でも読めるような本や学生の興味や関心がもてる本を教授活動の中で取り入れる配慮をして学生の読書の頻度を高めていく必要がある。

2. 読書の種類について

入学時、2年次ともに学生が多く読んでいた本の種類は、『小説』、『医療・看護・福祉』、『ノンフィクション』であったことから、学生の読書の種類の志向は、『小説』『医療・看護・福祉』『ノンフィクション』であると考えられる。これらは、毎日新聞社の読書世論調査⁸⁾の主に読む本のジャンルの中にも含まれている。つまり、一般にも読まれる本の種類であり、本学の学生もその傾向と同様に読んでいられると思われる。『小説』が入学時・2年次ともに40%以上である。これは、主人公と自分を重ねあわせながら感動したり疑似体験ができること、また、推理小説では、推理を楽しみながら本を読むことができるため多く読まれているのではないかと考えられる。また、『医療・看護・福祉』が多いことは、対象が看護学科の学生であることから、これらに関心が高いため、多く読んでいられると思われる。

個人別にみた入学時と2年次の読書の種類の記載内容の変化をみると、変化があった学生は53名であった。しかし、その中に、入学時には記載があったが2年次になって記載のなかった学生が13名みられた。この学生には、読書の種類の幅を広げるための工夫や積極的な関わりが必要だったのではないかと考える。

このことから、教授活動の中で教材を用いるときには、学生の読んでいる本の種類を考慮して、その興味関心を活かした選定も学生の読書意欲を高めることにつながるのではないかと考えられる。

3. 印象に残った本について

1) 入学時と2年次の印象に残った本について

印象に残った本の記載者数、記載件数ともに、入学時に比べ2年次になり減少した。これは、入学後1年間で印象に残る本と出会う頻度が低かったこと、出会っていたとしても、その本を読んだときの学生の気持ちや体験などに左右され印象に残らなかったとも考えられる。

印象に残った本の種類として入学時・2年次ともに『小説』が最も多く、次いで、『医療・看護・福祉』、『ノンフィクション』であり、上位4つの種類・順位は同様であった。この順位は、読書の種類でも同様であり、多く読む本の種類の中に、印象に残った本と出会う機会が多かったと考えられる。

一方、『医療・看護・福祉』の割合が、入学時

34.7%、2年次23.1%であり、専門科目の学習内容が進んでいる2年次より入学時が高かった。また、具体的な本の題名では、患者・家族の書いた闘病記や看護婦・医師の体験談が多かった。この結果を合わせて考えると、本学の学生は、入学以前から『医療・看護・福祉』に関心があり、印象に残る本と出会い看護婦になりたいと思ったために入学時が高かったと思われる。この点は、本研究の対象に実施した酒井らの研究⁹⁾の中で、本学および看護学科選択の理由の第1位が「看護婦(士)になりたかった」であった結果からも推察される。しかし、2年次に減少していることは、日常的に『医療・看護・福祉』の内容にふれることにより、本を通しての印象深さという視点からは減じてきているのではないかと考える。

次に、入学時と2年次の印象に残った本の具体的な本の題名をみると〈病院で死ぬということ〉〈ふたり〉など話題になった本であった。また、〈人間失格〉〈氷点〉〈塩狩峠〉などは、人間の心理的な葛藤を描いた小説で、かつ、いつの時代でも読みつがれていく本であり、本学の学生もその標準的な幅の中で印象に残ったものと思われる。

2) 個人別にみた入学時と2年次の

印象に残った本の記載内容の変化

入学時と2年次の記載内容に【変化あり】の中の[入学時と2年次が異なる内容]と[入学時記載なし2年次記載あり]をあわせると44名の学生は、1年間に読書した本の中に、新たに印象に残る本との出会いがあったと思われる。[入学時と2年次が異なる記載内容]の中に、少数ではあるが〈いまを生きる〉〈眠れぬ夜の夢〉など教材の一部として取り上げた本や授業で紹介した本があった。これらは、授業で取り上げたことがきっかけとなって本を読み、その本が学生の気持ちや体験とむすびついて印象に残ったと考えられる。

入学時と2年次の記載内容に【変化なし】では、読書の頻度が低いために印象に残る本との新たな出会いがなかったと考えられる。

印象に残った本の中に、教材として一部を取り上げた本や授業で紹介した本などがあったことから、効果的な教授活動をしていくことによって、学生の読書状況を高めていくことができると考える。

本研究の限界は、1施設での調査のため一般化できないことであり、また、今後の課題は、継続的に読書状況の変化を明らかにし、3年間の傾向をつかんでいくことである。

V. 結論

今回の調査により、以下のことが明らかになった。

1. 読書の頻度は、入学時に比べ2年次では本を読まなくなっている傾向にあった。
2. 読書の種類は、入学時・2年次ともに『小説』が最も多く、次いで、『医療・看護・福祉』、『ノンフィクション』であり、上位5つの読書の種類・順位には変化がみられなかった。
3. 印象に残った本の種類は、入学時・2年次ともに『小説』が最も多く、次いで『医療・看護・福祉』、『ノンフィクション』であった。
4. 個人別の入学時と2年次の変化として、読書の頻度は、入学時より2年次で低くなった学生が20名いた。また、読書の種類と印象に残った本は、入学時と2年次では記載内容が変化していた学生が多かった。

おわりに

今回の調査にご協力くださいました本学の看護学科2期生に心より、お礼申し上げます。

引用文献

- 1) 南雲美代子, 滝内隆子, 佐々木真紀子, 大島弓子: 看護学生のメディアからの情報に関する実態-本学看護学科1期生の入学時調査から-, 日本赤十字秋田短期大学紀要, No.1, p.77-82, 1996.
- 2) 南雲美代子, 滝内隆子, 大島弓子, 佐々木真紀子, 酒井志保: 看護学生のメディアからの情報収集に関する実態(第2報)-本学看護学科2期生の入学時の調査から-, 日本赤十字秋田短期大学, No.2, p.43-51, 1997.
- 3) 森 智彦: 東横学園女子短期大学生読書調査, 東横学園女子短期大学紀要, No.23, p.129-144, 1988.
- 4) 安藤宣子: 看護学生の読書に対する意識調査, 図書館学, No.64, p.11-17, 1994.
- 5) 読書世論調査1999年版, 毎日新聞東京本社広告局, p.15, 1999.
- 6) 4) 前掲: p.12.
- 7) 金内花枝: 生活行動の時間的分析, 駒澤大学苫小牧短期大学紀要, No.22, p.26-27, 1990.
- 8) 5) 前掲: p.24-25.
- 9) 酒井志保, 滝内隆子, 大島弓子, 佐々木真紀子, 南雲美代子: 看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態(第2報)-本学看護学科2期生の入学時の調査から-, 日本赤十字秋田短期大学, No.2, p.34-37, 1997.